# オリジナルグッズ　小風呂敷の制作
## ― 校章を利用した図案の提案 ―

松本　幸子　　佐々木　麻紀子　　藤居　眞理子

広報用に使用する初のオリジナルグッズ小風呂敷を制作する目的で，①基本図案を考案し,②前記①を用いて小風呂敷を制作，③パッケージをコーディネートして完成させた。東京家政学院大学の伝統と校風を感じられる小風呂敷の制作を行うために，次の方法で検討した。上記の①はAdobe Illustrator CS2を用いて図案化を行った。②は①で決定した基本図案を基に彩色や配色等について，パソコンソフトと試作品で検討した。③は大学の公式校章ログを用いて，パッケージ用シール，メッセージカードを作成した。包装には市販品を選択した。評価は３名で行った。その結果，江戸小紋風の柄，藍染め風の色を地色に，模様部分は木綿の生成り色にし，所々に紅色を挿し，周囲を濃紺で囲んだ小風呂敷を完成させた。白い窓付きの箱に入れ，熨斗代わりに紅色のリボンとシールを付けた。この小風呂敷は他校などを訪問する際の手土産，並びに来客へのお土産などとして使用する。

キーワード：オリジナルグッズ　小風呂敷　捺染　校章　伝統柄

## １．はじめに

平成23年初めに東京家政学院大学初のオリジナルグッズとして，捺染による小風呂敷の制作企画を立ち上げた。制作目的は，役職者や教職員が他校などを訪問する際の手土産，並びに来客へのお土産などとして広報用に使用することである。企画段階において，小風呂敷は，大学の伝統と校風を感じられるデザインであることが必要と考え，次の３点を制作の要件とした。

(1) 品の良い和風伝統柄とする。
(2) 表の面には大学名を入れず，裏のタグに校章の赤いKVAマークと法人名を明記する。
(3) 柄は大学を知っている方にはすぐにそれと分かり，知らない方にも喜んで使ってもらえるよう，さりげないアピールとする。

また，染色は地域連携の意味から，八王子市内に残る数少ない捺染工場で染色する。

東京家政学院大学現代生活学部生活デザイン学科

## ２．目的

広報用小風呂敷の制作に当たり，次の３点を目的とした。

(1) 基本図案を制作すること。
(2) 基本図案を基に色柄等を決定し，小風呂敷を制作すること。
(3) パッケージ等をコーディネートし，完成させること。

## ３．方法

### 3.1　基本図案の制作

#### 3.1.1　背景

パナマ諸島のサン・ブラム島のクーナ族の女性が着用しているブラウス風上着の胸と背についている飾り布「モラ」という民族衣装がある。その服飾的工芸手法を利用して作品を創作[1]し，制作している。その制作研究で大学の校章をモチーフに使用し，日本の紋様とのコラボレーションを考え，図案を展開して制作した作品の一つが図１[2]である。この作品に使用した校章の図案を基に今

回の基本図案をデザインした。

**図１　きもの作品と部分拡大**

3.1.2　基本方針

今回の制作目的は，大学の伝統と校風を感じられる図案の制作であり，ほぼ90年の伝統を有する大学の存在をアピールする事でもある。さらに最終的な作品が50cm×50cmの小風呂敷であるという限定された条件がある事も考慮し，和風伝統柄という企画条件を満たす，伝統柄と校章とのコラボレーションを基本図案として創作することとした。

3.1.3　模様の制作方法

Adobe　Illustrator CS2を用いて図案化をおこなった。

3.1.4　基本模様の検討

予備段階として，伝統柄の中から，円重ね，渦巻き，縞・格子，亀甲などを取り入れてデザインを多数試作した。その中から縁起のよい吉兆紋様である亀甲模様を基本模様にする事とした。

3.1.5　校章の模様化

多くの人に使用してもらうことも小風呂敷の制作要件の一つであることから，あまり校章を前面に出して主張することは避け，よく目を凝らして観察すると校章であるという事がわかるぐらいのデザインになるようし，大学で学んだことのある人，あるいはかかわりを持ったことのある方には，すぐにわかるようなデザインにした。

東京家政学院大学の校章（図２）は学生により考案され，創立者大江スミが大正14年にこれを校章として選んだ。その意匠は，愛と純潔の象徴であるバラの花に次の三語の頭文字を組み合わせたものである。K：Knowledge，V：Virtue，A：Art これらは知識の啓発，徳性の涵養，技術の練磨を象徴したもので，これを体得させて，良き社会人家庭人を育成することが建学の精神であることを示している。

なお，VがKとAを囲んでいるのは，徳性の涵養が根本をなすことを意味している。

**図２　校章**

3.1.6　基本図案の制作

3.1.4と3.1.5を組み合わせて図案とした。

3.2　小風呂敷の制作

3.1.6を基に風呂敷としてデザインした。

3.2.1　彩色の検討

捺染用型紙業者に依頼し，パソコンソフト上で実物大の型紙を作成し，ソフト上で彩色した。

3.2.2　配色の検討

3.2.1と同様の方法で検討後，捺染業者に試し染めを依頼し，それを用いて検討した。

3.3　パッケージ等のコーディネート

3.3.1　メッセージカード

小風呂敷制作要件の3点に添って制作した。

3.3.2　KVAシール

大学公式のKVAマークを用いてアレンジした。

3.3.3　パッケージ用品
　市販品の中から選択した。

3.3.4　完成品
　全てをまとめて完成品とした。

3.4　評価方法
　３名の目視による評価とした。

## ４．結果と考察

4.1　基本図案
　最終的に２つの基本図柄を取り上げた。どちらも校章の形をひとひらの花びらとして，花の形に作り上げ，それを基本のパーツとしたものである。

4.1.1　校章の形を花弁に見立てた図柄（図３－１）
　外枠は６角形の亀甲柄を規則正しく一片の半分の位置に中に入れ，亀甲の角を合わせ，次々と中に三つの亀甲を入れたものである。

**図３－１　図案**

　次に中に入れるパーツとして，校章を一つの花弁と見立ててKVAの文字も一色で塗りつぶし，６枚の花びらとして，亀甲の形の線上にバランスよく配し一つの花とし，蕊も校章を小さくしたものを中心に配した（図３－１）。それを基に市松模様風（図３－２），円重ね風（図３－３），渦巻きを利用した模様（図３－４），よろけ縞を合わせた模様（図３－５）の４つの基本図案を制作した。

**図３－２　市松風模様**

**図３－３　円重ね風模様**

**図３－４　渦巻き模様**

**図３－５　よろけ縞模様**

4.1.2　校章をそのまま利用した図柄

校章をそのままを利用した一つのパーツを考え，亀甲模様の中に６方向にバランスよくおさまるように配した図柄が図４－１である。それらを江戸小紋の紋様のように一面を埋めるよう配した基本図案が図４－２である。校章部分に色を配した図案が図４－３である。

**図４－１　図案**

4.2　基本図案の選択

図３－２から図３－５および図４－２，図４－３の６図案を検討した結果，制作目的である90年の伝統を有する大学の存在をアピールする図案としては，捺染の技法を用いて江戸小紋風に染色できる図案である図４－２が適しており，小風呂敷としても年齢，性別を問わず使い易いと評価し，これを基本図案に採用した。

**図４－２　パターンＡ**

**図４－３　パターンＢ**

**図４－４　パターンＣ**

4.3　小風呂敷の制作

4.3.1　彩色と小風呂敷への展開

模様部分を防染して地色を彩色するデザインと，逆に模様部分を彩色し地色を防染するデザインを検討した。前者は季節に関係なく使いやすいが，後者は夏向きの彩色であると考え，オリジナルグッズ第一作目としては，前者を採用することにした。

4.3.2　配色などの検討

基本図案の段階では，地色を淡い暖色系とし，遠目には無地に見えるようにする意向であったが，それではアピールすべきKVAマークが不明瞭になることが分かった。KVAマークの明瞭化を実現させるために，伝統的な藍染め風の色を選ぶことを考えた。藍染めは江戸時代から日本人に親しまれてきた。この藍色を用いることで大学の伝統と歴史を表現でき，かつ年齢，性別を問わず使えると考え，地色にこの色を選んだ。模様部分は防染だけにすると，生地が蛍光増白された真っ白であることから，伝統的な藍染め風の藍色とは調和しないと判断した。そこで生成り木綿の色を出すため，ごく淡い薄茶色で染色することにした。

また，基本図案の亀甲模様を表す実線は，幾何学的な鋭い感じを与え，江戸小紋風としては適さないと考えた。そこで，間隔を詰めた点線に変更することにより，江戸小紋の型紙に用いられる突き彫り的な味わいを出し，パソコンソフトによる図案に，手づくり風な趣を添えることが出来ると考え，図４－５のような点線に修正した。さらに，地色が一色では平板で堅苦しさを感じることから，模様の横一列おきの，花柄の中心部にある星模様部分に，周囲の枠と同じ色で彩色を行った。

しかし，同系色の濃淡では堅苦しさを和らげる効果は十分ではないと判断し，模様の縦一列おきの，花柄の中心部にある星模様部分に，枠の紺色ではなく紅色を挿すことにした（図４－６）。

この配色により，平板さと堅苦しさに対する改善になり，かつ模様の中心にある星型を明瞭にすることが出来た。目立つ色である紅色の挿し色部分の方が，紺色の挿し色部分より個数が少なくなり，華やかな色であることから，うるさくならず程良く調和したと考える。これにより柔らかい印象を与えることが出来，小風呂敷のチャームポイントになったものと判断し，これを小風呂敷の制作デザインとした。

**図４－５　パターンＤ**

4.4　パッケージ等のコーディネート

4.4.1　メッセージカード

品よく，押しつけがましさのないよう図５－１の文言でメッセージカードを作成した。カードの色は小風呂敷の模様部分の色に合わせ生成り木綿風のごく淡い薄茶色とした。

4.4.2　KVAシールとパッケージ

KVAシールは大学の公式標章を用いて作成した。２枚入りの箱に用いる白色円形のシールと，１枚入りの透明袋に用いるハトロン紙色の長方形のシールの２種類である。

箱は，中身が見えるような窓付きにし，小風呂敷の色を引き立てるように白地のものを選んだ。袋入りと比較して格の高い贈答用であることから，熨斗の意味も込めて，紅色のリボンを白いシールでとめた（図５－２）。

4.4.3　完成品

箱入りは図５－３である。図５－２は小風呂敷の裏につけたタグである。

図４－６　パターンＥ

図５－１　メッセージカード

図５－２　裏面のタグ

図５－３　包装完成

## ５．おわりに

広報に使用する大学のオリジナルグッズ小風呂敷の制作について，問題点と対策を下記にまとめた。

(1) 柄は江戸小紋風，色は藍染め風の小風呂敷を完成させたが，型紙をパソコン処理で作成したため，手彫りの型紙に比較し，やはり幾何学的であり無機質的な感じは否めない。手づくりのぬくもりを得るには，基本図案の時点で亀甲模様部分に手作業を付け加えるなどの工夫が必要であると考える。

(2) メッセージカードの内容について，①大学のアピールに乏しく情報が少ない。②「活用」とあるが，包む以外の活用方法が分からない。③風呂敷として活用するためには，もっと大きいサイズがよい。の３点が課題である。

平成24年度の制作に当たって，上記の①②を改善し，校章の由来，小風呂敷の使い方，大学の住所やHPアドレスのなどの情報を加えた。

(3) 平成23年度は製作枚数の半分強が広報に活用され好評を得た。しかし，半数弱は残ってしまったことになる。小風呂敷は使ってこその広報用グッズである。残った原因として，広報不足が考えられる。

平成24年度は，前年度末に学生の学外実習を実施する学科や担当者に小風呂敷を案内した結

果，600件の需要があった。今後とも学内の連絡を密にし，小風呂敷を活かす方向で広報する必要があると考える。

(4) 平成23年度は学内の教職員や卒業生の入手希望者に対応できなかった。

平成24年度は小風呂敷第一作目「藍色」に続いて，濃紺色地に赤枠の色違いを制作し，大学オリジナル グッズの第二作目とした。また，平成24年度限定品として「赤」,「ピンク」,「薄茶」を少数作成し,対応できるように努力した。

(5) 以上を踏まえ，より好まれるオリジナルグッズとして改良，発展させて行きたい。

**引用・参考文献**


1）松本幸子『「モラ」手法によるテキスタイルの創作』，東京家政学院大学紀要　第47号P33～37 2007

2）松本幸子『「モラ」手法を用いたゆかた製作』，服飾文化学会第６回大会研究発表会要旨集，2005

3）檜枝重信『モラ サン・ブラスの芸術」（株）求龍堂，1973

4）北村哲郎『日本の文様』（株）源流社，1988）

5）『日本の伝統文様と伝統色』株）ナツメ社，2009

6）『日本の文様』（株）誠文堂新光社，2008

7）粋屋ホームページ：
http://www.ikiya.jp/crest/warituke/sippou.html
（2007.8.10）


（受付　2012.3.27　受理　2012.6.4）